

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います。

まほろば



2020.1
第221号

新年のご挨拶



皆さん、新年明けましておめでとうございます。年末年始の長い休み如何お過ごしだったでしょうか？本年は雪が少ないようでホッとしている方も多いかと思います。新年にあたり、診療機能の新たな取り組みと新中核病院建設の進捗状況についてご紹介します。

今月より、新たに呼吸器外科が設置されました。肺がん・肺炎など高齢者における呼吸器疾患は増加傾向にあります。一方で診療体制をみると、

当院では呼吸器内科を標榜できる体制を維持しておりますが、外科的治療が必要な症例は、全て大学病院へ依頼していました。当院に呼吸器外科を新設することにより、より総合的に呼吸器疾患に対処できるようになります。さらに、大学病院とのスムーズな連携が可能になるものと考えています。

新中核病院建設に関しては、2020年度前期（2020年5月末）に準備工事が終了し、その後から本体工事が始まる予定です。

新中核病院の予定地（現在の入院病棟と看護学校に挟まれた場所）にあたる旧病棟等の解体が進められています。仮設の建物が現在の売店向かいの中央駐車場に完成し、各部署の（1階：ME室・食器洗浄室など、2階：会議室・職員更衣室など）引っ越しが終わりました。また中央渡り廊下からリハビリテーション部へ迂回する廊下が新設されました。化学療法室は、外来左の地域医療研修センター1階に移動し診療を行っています。

これらは、現時点での診療機能及び患者さんへのサービスをできるだけ保持しながら本体工事を進めるための処置です。いろいろとご不便をおかけしますが、患者さんをはじめ関係各位のご理解とご協力をお願い致します。

新中核病院は、2年後の完成を目指しています。職員一同、心を一つにして二次的急性期病院の役割をしっかりと維持しながら、新中核病院整備に向けた準備を進めて行きます。

最後になりますが、ねずみ年は繁栄の年といわれます。2020年が皆さんにとって素晴らしい年になるように願っています。

特別統括病院長：



（中国広州中山大学劉病院長から頂いた伝統芸『花文字』で描かれた私の名前正月限定）



ホスピタルカフェに参加して

令和元年 11 月 30 日に弘前大学にてホスピタルカフェに参加してきました。ホスピタルカフェとは各病院から採用担当職員、看護師、作業療法士、管理栄養士などが看護・メディカル学生と飲み物を片手に気軽に話し合うゆるやかな交流会のことです。青森県内から 10 施設程参加しました。

カフェなので業務内容や病院の雰囲気などよくある質問以外にも、スタッフ・多職種間との関係性、給料、休暇、超過勤務など普段聞きづらいような

話題も多くあがりました。中には、現在専攻している分野以外にも将来就きたい職業がある方がいました。そのような考えは他人へ相談しづらいのではないかと思います。ゆるやかな交流会だからこそ気軽に話すことができたと思います。不安感が軽減されて安心されたとのことでした。

会話が自然と増えるためより詳しく職業・病院を知ってもらう機会になりました。これを機に当院への興味を持っていただけたらと思いました。

作業療法士：五十嵐 翔平



がんばった！お遊戯会



12 月 24 日、風の子保育園にて、お遊戯会を行いました。たくさんのご父兄の皆様にお越しいただき、和やかな雰囲気の中、

子どもたちは緊張したり、張り切ったりしながらお遊戯を披露しました。初めてお遊戯会に参加した 0 歳児。ステージの上でキョロキョロしている姿に「かわいい♥」と歓声をいただきました。アニメキャラクター、「はなかっぱ」になりきった 1 歳児。踊ると頭に付けたお花が揺れて会場の笑いを誘っていました。ステージを駆け回ったり、動けなくなったりした 2 歳児。照れている姿がとても可愛かったです。

3・4 歳児の女の子たちは、人魚姫になりきって踊りました。リアルな衣装に会場から驚きの声が上がりました。3・



4 歳児の男の子は、蝶ネクタイを付け、髪型もバッチリきめて、動きの揃ったダンスを披露しました。5 歳児、最後のお遊戯は、

和装をして、とても綺麗で凛とした姿を見せてくれました。練習してきた成果を見事に披露できた子どもたち。サンタさんからプレゼントをもらい喜んでいました。



風の子保育園 園長：木村 美千代



令和2年 子年 無病息災を願って ～初詣・函館八幡宮参拝にて～

北海道新幹線が開通してから数年経ち、未だ乗ったことが無いことと、日頃の疲れを癒やすのに温泉に浸かりたいという思いで、今年の年始めの初詣にと函館の地を選びました。

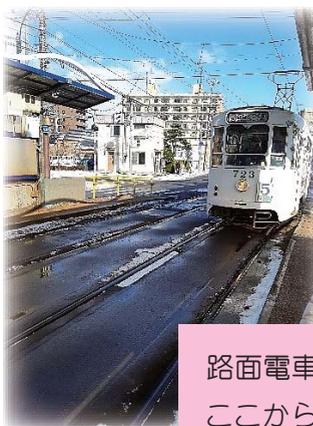
弘前から電車に揺られ、新青森からはおよそ1時間で新函館北斗駅へ到着。ここからまた電車に乗り20分ほどで函館駅に。市電に乗り換え、早速函館八幡宮へ向かいました。

函館の名の元となった河野加賀守政通公が、函館に館を築いた際に敷地内の東西の隅に八幡神を祀ったことが起こりとされているそうです。家内安全、商売繁盛、厄除け、航海・漁業の守神とされ、

また受験合格を願う方など三が日もたくさんのお参りの方が訪れていました。私も今年1年の無病息災を願い、手を合わせました。

十二支の1番目である子年ですが、植物にたとえ、新しい生命が種子の中にさざし始める時期で、新しい物事や運氣サイクルの始まる年になると考えられているそうです。年が明け、寒さも一段と厳しい季節となりましたが、受診・入院されている患者様・ご家族にとっても今年1年平穏無事に過ごせますよう、スタートできますことを改めて願う機会となりました。

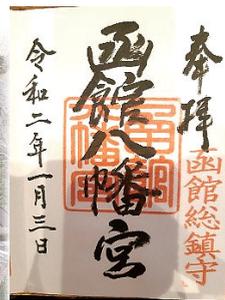
医療安全管理係長：白取 彩香



路面電車で終点谷地頭駅下車。ここから徒歩で約10分、ようやく入り口が見えてきました。134段の石段を登り、本殿へ。



御朱印もいただき、今年の皆様の無事を祈願しました。



研修医便り

臨床研修医1年目の古米健吾です。昨年4月から始まった研修も新年を迎えもう5/6を終えようとしています。多くの患者さんや先生方、スタッフの皆様のおかげで貴重な経験をさせていただき、日々成長させて頂いています。ありがとうございます。1年近くこの環境にいると親しみ・愛着が形成されてきますが、私は大学病院のたすき掛けのため、年度末にこの病院ともお別れをしないとはいけません。お世話になった国立弘前病院での残りの日々を楽しみながら研修をさせて頂きたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。

さて、最近の個人的ニュースですが、昨年夏に結婚・パートナーの妊娠判明を経て今は着々とパパになる準備をしております。先日の妊婦検診で女の子の可能性が高いということで喜んでおりました。しかしながら、私自身が男兄弟ということもあり、女の子の育て方がわかりません。先輩パパ、先輩ママからのアドバイス等頂けると幸いです。

臨床研修医：古米 健吾



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (令和2年1月10日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	横田貴志
呼吸器内科		中川英之	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之
		山本勝丸	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子	下山垂矢子
		下山垂矢子	田中佳人	田中佳人	—	田中佳人
		—	石岡佳子	—	—	—
消化器・血液内科		松木明彦	相原智之	相原智之	松木明彦	相原智之
		山口公平	間山恒	松木明彦	間山恒	山口公平
		佐藤年信	千葉裕樹	佐藤年信	山下覚	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	千葉裕樹	石黒陽	石黒陽
	午後 血液内科のみ	間山恒	山口公平	間山恒	山口公平	—
脳神経内科		廣畑美枝	清野祐輔	—	清野祐輔	清野祐輔
小児科		杉本和彦	佐藤工	敦賀和志	佐藤工	杉本和彦
		敦賀和志	松本麻希	佐藤啓	杉田梓	佐藤啓
		杉田梓	藤岡彩夏	藤岡彩夏	松本麻希	藤岡彩夏
外科		柴田滋	内田知顕	柴田滋	内田知顕	三上勝也
		—	堤伸二	堤伸二	堤伸二	—
呼吸器外科		對馬敬夫	—	—	—	對馬敬夫
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅
整形外科	午前	岩崎宏貴	秋元博之	秋元博之	中村吉秀	秋元博之
		藤田有紀	中村吉秀	岩崎宏貴	藤田有紀	中村吉秀
		松本健太郎	藤田有紀	松本健太郎	—	岩崎宏貴
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨	成田拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		飯野香理	松村由紀子	追切裕江	● 妊婦健診 (一般外来休診)	飯野香理
		松村由紀子	丹藤伴江	丹藤伴江		追切裕江
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		西澤尚徳	西澤尚徳	(手術)	西澤尚徳	西澤尚徳
		松下大佑	福岡侑	—	—	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
		—	坂下仁菜	—	—	—
	治療	—	—	川口英夫(午後)	—	川口英夫(午後)
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		—	—	—	休診	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。
 ※ セカンドオピニオン外来は当分の間休診となります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

生きてるを 感ずる痛み 喜びの治療

(ムラマサ)

初夢の 想いと共に 精進す

(石沢)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://hirosaki.hosp.go.jp/>

責任者：副院長 小田桐 弘 毅